

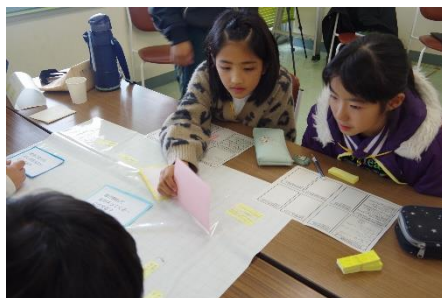
- 1 教育事業名 「体験！どきどき防災キャンプ」
- 2 ね ら い 防災に関する知識・技能を学び、被災後の生活の疑似体験をすることで防災に対する意識を高め、自ら考えて動ける児童の育成を図る。また、より深化し、特色ある防災プログラムを開発することで、学校や地域に普及啓発し国土強靱化につなげていくことを目的の一つとして、琉球大学と連携協働しながら調査・研究を行う。
- 3 期 日 令和6年11月30日（土）～12月1日（日） 1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 沖縄県在住の小学生（4年生以上）20名程度
- 6 参加人数 18名
- 7 参加者内訳 小学生18名 男子9名、女子9名（4年生14名、5年生2名、6年生2名）
- 8 講 師 伊藤 勝博氏（弘前大学 災害・被ばく医療教育センター）  
城間 吉貴氏（琉球大学教育学部講師）
- 9 実施プログラム

		8:45	9:00	10:00	11:30	12:00	13:00	13:10	14:10	15:30	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
11/30 (土)		集合	乗船	フェリーとかしぎ	移動	(弁当持参) 昼食	オープニング	講話「実際の災害現場」	講話「防災グッズの使い方を考えよう」	実習①「防災グッズつくってみよう！」ダンボールベッド簡易トイレ	調理実習「ドボン料理」	(どぼん料理) 夕食	入浴	実習②「防災体験」ナイトウォーク	入浴	就寝
	6:00	7:40	8:45	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	14:30	15:30	16:40				
12/1 (日)	起床・清掃	朝食(防災食)	清掃チェック	ダンボールベッド取	渡嘉敷村備蓄倉庫見学	講話・実習「こんな時どうする？」簡易蛇口作り	昼食(防災食)	ふり返り	エンディング	移動	フェリーとかしぎ	泊港着	解散			

10 事業の様子



オンライン講話



防災グッズワークショップ



段ボールベッド作成



どぼん料理作成



備蓄倉庫見学



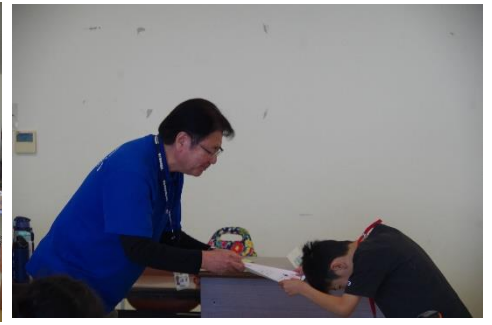
ペットボトル蛇口作成



防災食



ミニ避難訓練



参加証授与

## 11 エピソード（参加者の声、アンケートより）

### 【参加者（児童）の声】

- ・避難生活で快適に過ごす技や、災害への対応について学べた。
- ・家に戻ったら防災リュックを作りたい。災害を逃れた後も、避難生活の準備がないと苦労すると知った。
- ・段ボールベッド作りが一番楽しかった。簡単に作れるので本当の災害時にも役立つと思った。
- ・どぼん料理は、お皿も鍋も洗わないで良いということが災害時に役立つと思う。
- ・備蓄倉庫には村民の他に観光の来島者用にも備蓄があること知って驚いた。

### 担当者所見

#### (1) 成果

- ・弘前大学災害・被ばく医療教育センター教授、同大学高度救命救急センター副センター長の伊藤勝博先生に、東日本大震災の実際の現場や医療活動の様子などをオンラインで講話していただいた。児童らが災害の恐ろしさ、災害時の大変さ等をより実感した様子がアンケートから伺えた。
- ・「災害前→災害発生（避難訓練）→災害後（避難所生活）」と、時間経過に沿ったプログラムを組んだり、備蓄倉庫にあるカンパンやアルファ米などの防災食を取り入れたりするなど、被災時により役立つプログラムを実施することができた。
- ・講話・ワークショップにおいて、防災リュックに入れるべき防災グッズとその使い方についてグループで考え、その内容を発表し共有することで、各自が各家庭で準備しておくべき防災リュックの中身について学ぶことができた。
- ・サバイバル3の法則「3分間呼吸ができない 3時間体温が奪われる 3日間水が飲めない 3週間食べ物がない」と、命の危険があることを学ぶことができた。
- ・事業を通して児童らは互いに交流しながら協力し、様々な体験活動をする中で、それぞれが新たな知識と経験から、防災に対する意識を変化させることができた。
- ・事業を通して学んだことを家庭に持ち帰り、家族と共有しようとする意思が見られた。参加者だけでなく参加者から身近な人への波及効果も期待できる。

#### (2) 課題

- ・本キャンプは災害が発生してから避難所で生活をするという疑似体験を行ったが、沖縄では台風時に避難に至らずとも停電や断水などの自宅でのライフラインの寸断もありうる。どぼん料理のように普段の生活でも活用できることを実感させる工夫を、プログラム中の声掛けなどを通して適宜行っていくことが大切であると感じた。災害に関わらず役立つことを体験的に学ぶ機会が「防災キャンプ」であるという意識を高めたい。
- ・今回は天候に恵まれたため、避難訓練や備蓄倉庫への移動がスムーズであった。雨天時の対応を事前に細かく検討しておく必要がある。